

宇宙観光白書 2025

— White Paper on Space Tourism: Japan 2025 —

公開：宇宙旅行.jp (<https://uchuryoko.jp/white-paper>)

発行：宇宙旅行リサーチ＆インテリジェンス

2025年10月発行

目次

まえがき	P3
調査概要	P4
本調査の特徴と主要結果	P5
主要調査結果 (Executive Digest)	
1. 宇宙旅行への関心度	P7
2. 支払許容額	P8
3. 体験ニーズ	P9
4. 不安要因	P10
5. 税金の優先先	P11
付録 一 調査設問	P12-15
引用ガイドライン	P16
奥付	P17

まえがき

民間による宇宙旅行の商業化が海外で始まり、市場は黎明期にある。

「宇宙へ行くこと」は、もはや空想ではなく、一部の人々にとって具体的な選択肢となりつつある。

一方、日本では、宇宙に関する意識調査は実施されているものの、宇宙旅行（個人の需要）に特化し、かつ継続的に結果を蓄積した調査は多くない。また、宇宙観光（宇宙旅行を含む広い産業領域）についても、国民意識を継続的に把握した資料は限られており、意識の経年変化を体系的に把握できる調査も、現時点では十分とはいえない。

本書は、こうした状況を踏まえ、宇宙旅行に対する国民の関心・期待・不安を、検証可能な形式で整理した記録であり、今後の調査継続に向けた基点として位置づけている。

本調査では、全国500名を対象とした意識調査を実施し、日本人が宇宙旅行をどのように捉えているかを、回答分布に沿って整理した。

Q1の回答に基づき、「全く行きたくない」を選択した方を除く292名に対しては、期待体験・支払意向・不安などの詳細設問を実施した。

全国民全体の意識構造の把握については、次年度以降の拡充を予定している。

本書は、特定の立場による提言を行うものではなく、「2025年時点でのこのような回答が得られた」という事実を淡々と記録した一次資料である。

報道・研究・政策・企業などが、それぞれの文脈に応じて参照できるよう設計している。

本調査は、いかなる団体・企業からも資金提供や依頼を受けず、独立した立場で実施したものであり、その点が本書の中立性の土台となっている。

ISSNの取得、国立国会図書館への納本といった手続きを経ることで、本書を将来にわたり参照可能な記録として残している。

『宇宙観光白書』シリーズは、今後も調査を継続し、日本の宇宙旅行・観光をめぐる意識の変化を長期的に記録する資料としての役割を担っていきたい。

本書が、宇宙旅行をめぐる議論や意思決定に際し、必要に応じて参照される資料の一つとなれば幸いである。

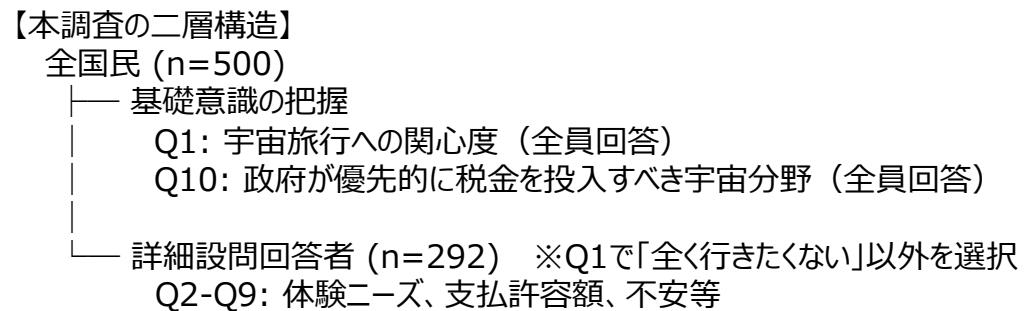
2025年10月

宇宙旅行リサーチ＆インテリジェンス（運営：株式会社シンフォルテ） 代表・調査責任者 荒谷 和宏

調査概要

宇宙旅行に対する関心・支払意欲・不安要因を定量的に把握し、基礎データとして整理することを目的とする。

項目	内容
調査名	宇宙旅行に関する全国意識調査（宇宙観光白書 2025）
調査期間	2025年10月10日～10月13日
調査方法	インターネット調査（実査：楽天インサイト株式会社）
対象	全国20～79歳の男女
サンプル数	n=500（※詳細設問はQ1で「全く行きたくない（選択肢6）」以外を選択した回答者（n=292）が回答）



割付方法	性別×年代（12区分）の人口構成比に準拠した割付による回収
設問数	10問（関心／支払許容額／体験ニーズ／不安要因／税金の優先順位）
調査主体	宇宙旅行リサーチ＆インテリジェンス（運営：株式会社シンフォルテ）

本調査の特徴と主要結果

◆背景

海外で民間の宇宙旅行サービスが始まり、「宇宙へ行く」が現実の選択肢として認識され始めている。日本でも宇宙に関する意識調査は実施されているが、本調査は、**宇宙旅行に特化し、支払許容額／体験ニーズ／不安／政策意識を継続的に記録することを目的**にしている。

◆調査結果（本調査の二層構造）

本調査は、以下の二つで構成される。

① 全国民の基礎意識（n=500）

※全国民を対象とした調査

② 詳細設問回答者の意識（n=292）

※Q1で「全く行きたくない」以外を選択した層の調査

項目	母集団	概要	主な結果
関心度	全国民 n=500	行きたい人の程度	「意向層」：約4割
支払許容額	詳細設問回答者 n=292	いくらまで払うか	「500万円超」：約1割
体験ニーズ	詳細設問回答者 n=292	何をしたいか	「地球を眺めたい」：約3割半ば
不安要因	詳細設問回答者 n=292	費用／安全／体力など	「費用」「安全」：約7割
税金の優先順位	全国民 n=500	旅行・探査・教育など	「衛星・通信インフラ」：約3割半ば

◆調査設計上の特徴

- 本調査は、宇宙旅行への意識を二段階で把握することを重視した設計である。
- Q1で宇宙旅行に対して“完全否定ではなかった”層（n=292）に対して、支払許容額・体験ニーズ・不安要因などを詳細に調査した。
- 国民全体の基礎意識（関心度・政府の税金の優先分野）についても調査し、2026年版では完全否定層の意識調査も拡充する予定である。

◆調査の意義

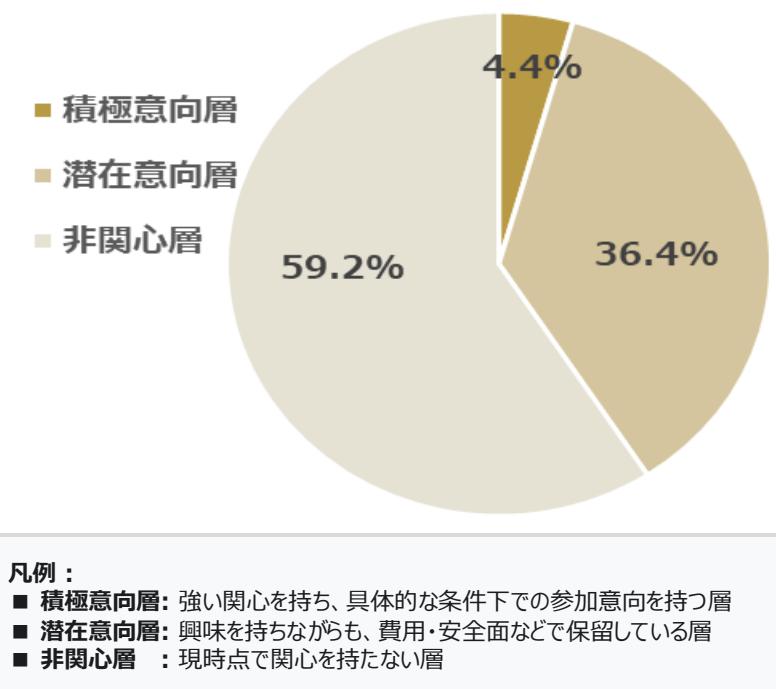
本白書は、全国民の基礎意識と完全否定でない層の詳細意識を継続的に記録し、報道・研究・政策・企業が参照可能な一次データとして提供することを目的とする。

【主要調查結果 | Executive Digest】

宇宙旅行、全国の4割が“関心あり” – 国内商品なき段階で

日本国内で商業宇宙旅行がまだ実施されていない2025年10月時点で、
約4割（204人）が意向を示し、うち4.4%（22人）がすでに情報収集など具体的行動を始めていた。

図表1：日本人の宇宙旅行意向（全国民 n=500）



《調査結果の要点》

調査では、宇宙旅行に「関心がある」と回答した人は全体の**40.8%**であった。

その内訳は、

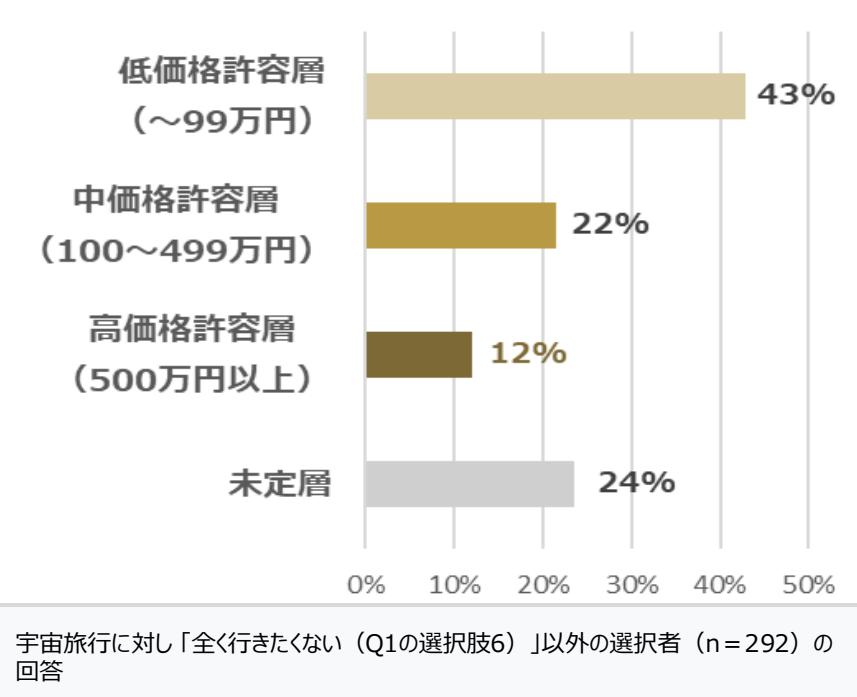
- ・行動を始めている・条件が合えば参加したい層が**4.4%**
- ・将来的に行きたい・興味はあるが現実的ではない層が**36.4%**だった。

本調査は、商業宇宙旅行がまだ国内で実施されていない段階における国民意識を定量化した全国調査である。

宇宙旅行、500万円超支払い層が1割 – 国内未商業化段階での価格意識

日本国内の宇宙旅行の商業化が進む前段階で、価格感覚を把握した。100万円未満が最多を占める一方、**500万円以上を許容する層も確認され、価格受容の分布が確認された。**

図表2：宇宙旅行に支払える最大金額 (n=292)



《調査結果の要点》

支払い可能額は、100万円未満が43%で最多となった。

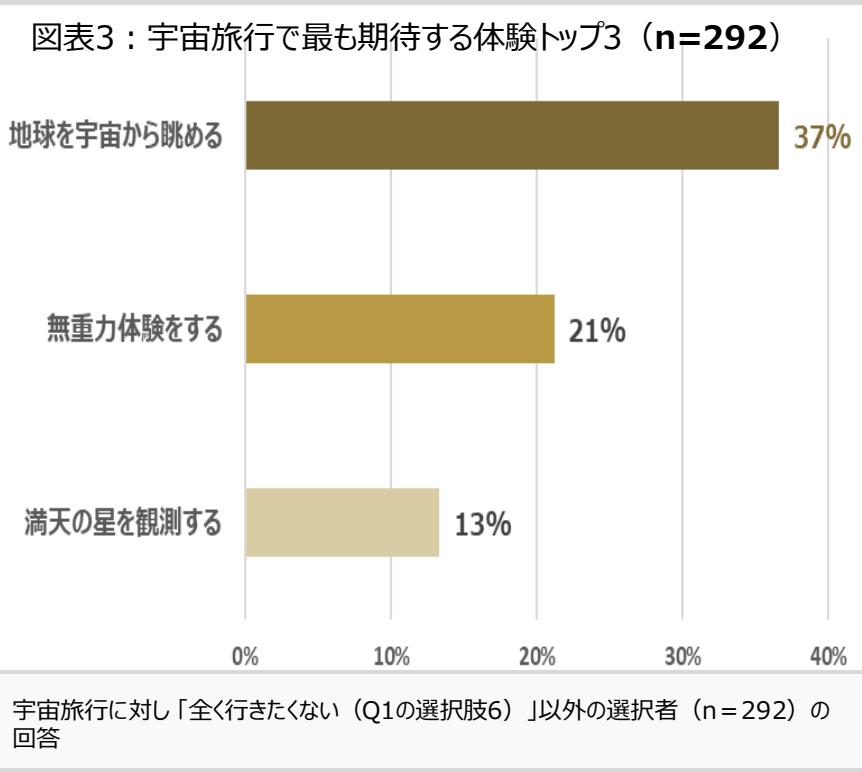
一方で、100～499万円が22%、**500万円以上が12%（※このうち、1,000万円以上は5%）**と、支払い許容層も確認された。

未定層が24%を占めており、この層の意向が今後どのように推移するかは、市場環境の変化とともに観測が必要となる。

本結果は、商業宇宙旅行が国内未実施の段階における基礎分布であり、今後の市場構造の変化を観測するための基点となる。

宇宙旅行、「地球を眺めたい」37% – 無重力・星空体験が続く

「宇宙旅行で最も体験したいこと」を一つだけ選んでもらったところ、**37%**が「**地球を宇宙から眺めたい**」と回答。次いで「**無重力体験**」21%、「**星空観測**」13%となり、人々の関心は、“非日常の感覚を味わう体験”に向いていることが示された。



《調査結果の要点》

「最も体験したい」を選ぶ単一回答形式のため、順位は関心の強さを反映している。

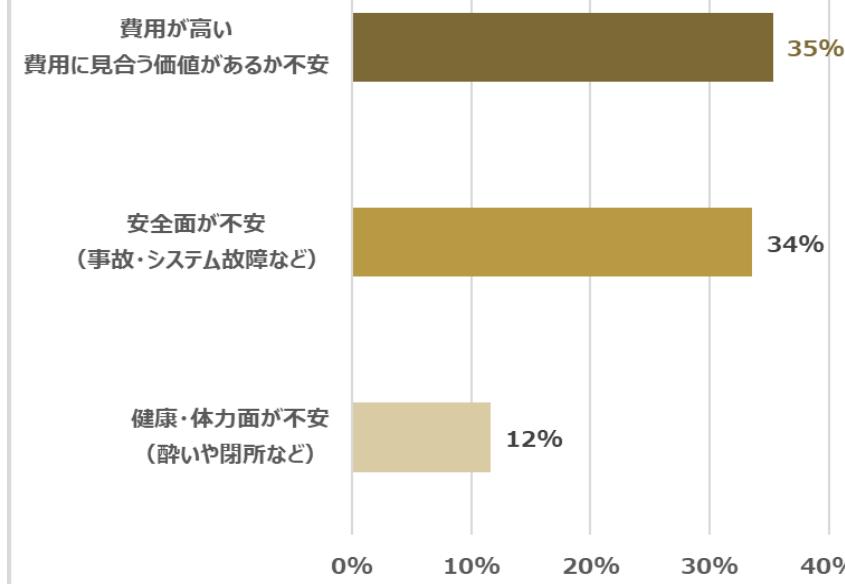
上位は「眺望体験（36.6%）」「無重力体験（21.2%）」「星空観測（13.4%）」で、**視覚的・身体感覚的な非日常体験**が中心だった。

一方、「宇宙での宿泊」や「ロケットの加減速」など滞在型・身体負荷の高い体験は1桁にとどまり、「実験参加」や「SNS発信」はさらに低かった。

宇宙旅行、最大の不安は「費用」と「安全」－7割が“価格とリスク”を懸念

宇宙旅行の「最も大きな懸念・不安点」を一つだけ選んでもらったところ、最多は「費用が高い」（35%）、次いで「安全面の不安」（34%）となった。全体の約7割が“価格”または“リスク”に関する懸念を挙げ、主要な心理的・経済的障壁であることが示された。

図表4：宇宙旅行に最も不安に感じる点トップ3（n=292）



宇宙旅行に対し「全く行きたくない（Q1の選択肢6）」以外の選択者（n=292）の回答

《調査結果の要点》

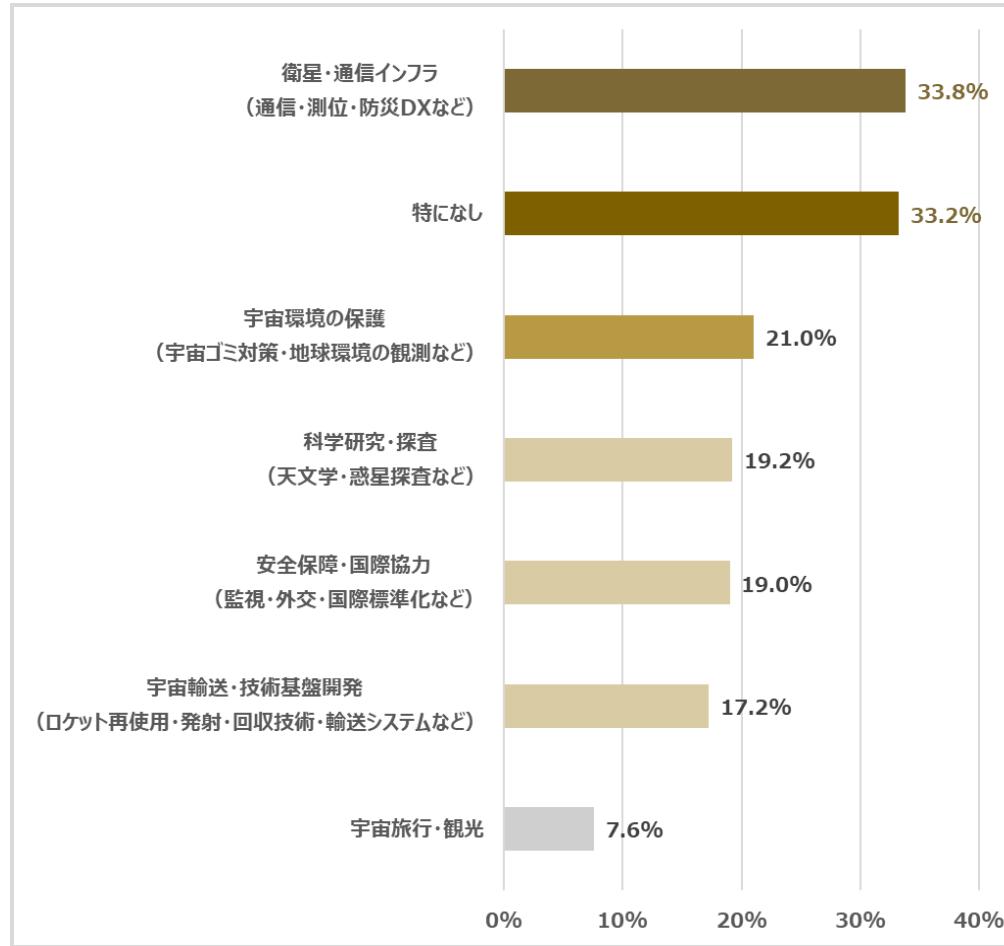
「最も不安に感じる点」を選ぶ单一回答形式のため、順位は懸念の強さを反映している。

上位2項目（費用・安全）は、宇宙旅行を現実化するうえでの“経済的ハードル”と“信頼性の壁”を表している。

本結果は、商業宇宙旅行が国内未実施の段階における基礎分布であるため、今後、価格やサービス内容が明確になることで、現在の懸念がどのように変化するか観測していく必要がある。

宇宙政策の優先分野 “衛星・通信”が最多34% – “特になし”も同水準

図表5：優先的に税金を投入すべき宇宙分野（複数回答 全国民n=500）



国民500名に政府が優先的に税金を投入すべき宇宙分野を尋ねたところ、「衛星・通信インフラ」(33.8%) が最多で、「特になし」(33.2%) もほぼ同水準だった。

この結果から、宇宙政策について明確な優先順位を持たない層が一定数存在することが示された。

《調査結果の要点》

回答分布では、「衛星・通信インフラ」33.8%と「特になし」33.2%が並ぶ形となり、宇宙政策の優先分野が未形成の層が約3割存在した。

続く分野は、「宇宙環境の保護」21.0%、「科学研究・探査」19.2%、「安全保障・国際協力」19.0%で、20%前後で中位的回答群を形成していた。

一方、「宇宙旅行・観光」への直接支援は7.6%と最も低く、国民の意識は、観光分野よりも制度・インフラ・環境保全などの基礎的分野を相対的に重視する傾向がみられた。

付録 一 調査設問一覧（全10問）

本調査は以下の10項目で構成されている。

※Q2～Q9の回答対象：Q1で「6.全く行きたくない」以外を選択した回答者。

設問	カテゴリ	内容	対象
Q1	宇宙旅行への関心	宇宙旅行に行きたいと思うかを尋ねる設問	全回答者
Q2	期待する体験	宇宙旅行で期待する体験内容を尋ねる設問	詳細設問回答者
Q3	理想の旅行期間	宇宙旅行に参加する場合の理想期間を尋ねる設問	詳細設問回答者
Q4	同行者	誰と行きたいかを尋ねる設問	詳細設問回答者
Q5	支払上限額	支払える金額の上限を尋ねる設問	詳細設問回答者
Q6	資金源	想定される費用の資金源を尋ねる設問	詳細設問回答者
Q7	最大の懸念	宇宙旅行で最も不安に感じる点を尋ねる設問	詳細設問回答者
Q8	企業選択基準	宇宙旅行を提供する企業を選ぶ際の重視点を尋ねる設問	詳細設問回答者
Q9	オプション関心	追加オプションに対する関心を尋ねる設問（複数回答）	詳細設問回答者
Q10	政府の優先分野	優先的に税金を投じるべき宇宙分野を尋ねる設問（複数回答）	全回答者

付録 － 設問Q1

設問	カテゴリ	内容	対象
Q1	宇宙旅行への関心	宇宙旅行に行きたいと思うかを尋ねる設問	全回答者

Q1. あなたは「宇宙旅行」に行きたいと思いますか？（回答形式：単一選択）

1. 強い関心があり、すでに情報収集など具体的な行動を始めている
2. 強い関心があり、条件が合えばすぐにでも参加したい
3. 将来的に参加したい（定年後・子育て後などのタイミングで）
4. 興味はあるが、費用や安全面から現実的ではない
5. あまり行きたいとは思わない（興味は薄い）
6. 全く行きたくない（宇宙旅行には関心がない）

※「6.全く行きたくない」選択者はQ2～Q9をスキップし、Q10のみ回答。

※また本白書では、「積極意向層」「潜在意向層」「非関心層」を以下で定義した。

積極意向層：Q1の1もしくは2の選択者

潜在意向層：Q1の3もしくは4の選択者

非関心層：Q1の5もしくは6の選択者

付録 － 設問Q2-Q9

詳細設問（Q2～Q9）の回答対象者：Q1で『6.全く行きたくない』以外を選択した回答者

Q2 | 期待する体験（回答形式：単一選択）

目的：宇宙旅行で最も価値を感じる体験要素を把握 選択肢：地球眺望／無重力体験／星空観測／宇宙ホテル宿泊／打上げ・帰還／SNS・発信／科学・教育／特になし／その他

Q3 | 理想の旅行期間（回答形式：単一選択）

目的：希望滞在期間の把握 選択肢：日帰り／1～2日／3～6日／7～13日／14日以上／特になし

Q4 | 同行者（回答形式：単一選択）

目的：同行スタイルの把握 選択肢：一人／パートナー／家族／友人・知人／団体／こだわりなし／その他

Q5 | 支払上限額（回答形式：単一選択）

目的：宇宙旅行に対する支払意欲の把握 選択肢：100万円未満～1億円以上の価格帯／未定

Q6 | 資金源（回答形式：単一選択）

目的：宇宙旅行費用の調達方法を把握 選択肢：自己資金／借入／資産売却／親族支援／勤務先負担／未定／その他

Q7 | 最大の懸念（回答形式：単一選択）

目的：購入阻害要因の把握 選択肢：費用／安全性／身体負荷／健康・体力／準備負担／スケジュール不確実性／保険・補償／環境影響／興味なし／不安なし／その他

Q8 | 企業選定基準（回答形式：単一選択）

目的：宇宙旅行提供企業の選定要因を把握 選択肢：価格／安全性／実績／サポート／体験品質／環境配慮／ブランド力／日本企業への安心感／特になし／その他

Q9 | 追加オプションの関心（回答形式：複数選択）

目的：付帯価値への関心を把握 選択肢：特別食／撮影支援／専門家交流／観測／夜間枠／記念行事／記念品／コンシェルジュ／安心パック／社会貢献／チャーター／特になし／その他

付録 － 設問Q10

設問	カテゴリ	内容	対象
Q10	政府の優先分野	優先的に税金を投じるべき宇宙分野を尋ねる設問	全回答者

日本の宇宙開発で、政府が優先的に税金を投入すべき分野の選択肢（回答形式：複数選択）

- ・ 宇宙旅行・観光
- ・ 輸送・技術基盤
- ・ 衛星・通信
- ・ 産業育成
- ・ 科学研究・探査
- ・ 教育・人材
- ・ 環境
- ・ 安全保障
- ・ ルール整備
- ・ 特になし
- ・ その他

引用ガイドライン

本白書の内容は、学術研究・報道・ウェブ記事などにおいて、
自由に引用・参照することができます（事前連絡は不要です）。
ウェブ媒体では、公式サイトURL (<https://uchuryoko.jp/white-paper/>)へのリンクを添えてください。

【出典記載例（紙媒体）】

宇宙旅行.jp『宇宙観光白書 2025』

【出典記載例（ウェブ媒体）】

宇宙旅行.jp 『宇宙観光白書 2025』

出典URL : <https://uchuryoko.jp/white-paper/>

奥付

逐次刊行物名：宇宙観光白書

今回の刊行号：宇宙観光白書 2025

ISSN 2760-3792 (オンライン)

発行日：2025年10月

発行：宇宙旅行リサーチ＆インテリジェンス（運営：株式会社シンフォルテ）

公開サイト：<https://uchuryoko.jp/white-paper/>

所在地(2025年現在)：〒220-0004 神奈川県横浜市西区北幸二丁目10番48号 むつみビル3階

問い合わせ：press@uchuryoko.jp